

＜読書教育に挑戦、塾生の読解力を育成しよう＞「小中高生の半分、読書 0 分。スマホ使用で読書時間短く」ベネッセ調査・日本経済新聞 10 月 26 日朝刊電子版を読む

＜はじめに＞

何が問題か。ものごとの本質とは何か。根本の原因は何かどうしたらよいか。本気で考え、本気で行動して初めて、塾生の学力向上に結び付くと考えます。今回は、「スマホ長時間使用問題」です。

////////////////////////////////////

日本経済新聞 10 月 26 日朝刊は超注目です。

＜ベネッセ調査＞



1. ＜1 日の平均読書時間＞

小中高生の半分、読書 0 分。

○スマホ使用で、読書短く。

2. (1)＜読書をしない＞ 2024 年調査

小 1 ～ 3 年 : 33.6 %

小 4 ～ 6 年 : 47.7 %

中学生 : 59.8 %

高校生 : 69.8 %

(2)＜1 日の読書時間の平均(スマホ利用時間の平均)＞

小 4 ～ 6 年 : 15.6 分(33.4 分)

中学生 : (96.7 分)

高校生 : 10.1 分(138.3 分)

(3)＜スマホ使用時間 0 分の読書時間(同 3 時間以上)＞

小 4 ～ 6 年 : 17 分 8 分(9.5 分)

中学生 : 21.7 分 (12.5 分)

3. (1)＜2024 年の高校生の 1 日の平均読書時間(同 2015 年)＞

0 分 : 52.7 % (34.3 %)

5 ～ 15 分 : 25.8 % (36.9 %)

30 分 : 13.7 % (18.5 %)

1 時間 : 5.8 % (7.7 %)

2 時間以上 : 2.0 % (2.6 %)



(2)＜秋田喜代美・東京大学名誉教授＞

「読書と学力は相関しており、授業の中で、紙や電子の書籍に触れる機会を増やすことが必要だ」

<コメント>

- 私立中入試を受ける受験生
- 中高一貫公立校を受ける受験生
- 高校入試を受ける受験生
- 大学入試を受ける受験生

すべての受験生に対する、＜塾長からのメッセージ＞です。

1. (1)①「第一志望校」を、自分の力で「決定」したら、
②「受験生としての自覚をもって自学自習」。
③その第一歩として「スマホ断ち」をおすすめします。
(2)①「受験勉強」
②「辞書」「新聞」「読書」「図書館」に慣れ親しみ
③「英語を含め、読解力」を自分の力で身に着けることをおすすめします。
(3)医学部医学科、東大、東京科学大、慶大、早大、京大など、トップ校・難関校に合格の可能性が飛躍的に高まります。



2. (1)○スマホ断ちは、絶大な効果を発揮します。
(2)「学校の定期試験 1 か月前から、スマホ断ち」。
(3)全教科、100 点満点を取り、学校成績(校内順位)大幅アップ」を実現しましょう。



3. (1)○「自分の未来は自分で切り開く」
(2)「自己責任」「自助努力」の中に、「スマホから離れる時間を極大化することも含ませる」ことを、ご検討ください。
(3)「スマホから離れる時間を多くすればするほど、新聞・読書時間や、各教科の勉強の時間、受験勉強の時間が増え、読解力アップ、学力アップ、第一志望校合格の可能性が極大化」します。

○スマホに触れる時間が長くなればなるほど、読書時間や学習時間が激減し、学力低下、第一志望校不合格の可能性が高まります。よくお考えください。

よろしくお願いいたします。



<最近感じたこと>

- 10 月 23 日(木)に栃木県経済同友会の視察会で参観した、栃木県立佐野東高校高校 1 年の生物の授業は、圧巻でした。「2025 年度ノーベル賞受賞の日本人学者の研究内容を、下野新聞の特集記事を用いて解説する授業」でした。
- これまでに接した、どの TV の解説番組よりもわかりやすく、ていねい親切、「ものごとの本質」に迫る授業内容でした。高校の先生方は、毎回の授業のために、どれだけ勉強に励み、毎日を過ごしているか、よくわかりました。

○栃木県立足利高校に通っていた時に、図書館に行くと、いつも日本史の先生が、必死になって、勉強に励んでいる姿を見て、また、職員室に行くと、先生方が、黙々と勉強している姿を見て、「高校の先生は、よく勉強して偉いものだ」と感心した覚えがあります。小学・中学・高校内容を教える先生は、その街で最も尊敬される「知識専門職」の「極地」とであると高く評価、最も尊い職業の一つであると考えます。

よろしく願いいたします。

お身体お大切に。

2025 年 10 月 26 日(日)9 時 14 分